allcinema

ウンベルトＤ（1951）

UMBERTO D

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 イタリア
色彩 B&W
時間 87分
初公開日 1962/10/01
公開情報 イタリフィルム

【解説】

年金支給額を上げよーーとのデモ行進に参加していたウンベルトは老退職公務員でアパートに一人暮らしの身。いつも小型犬のフライクを連れている。家賃が大幅に値上げとなり、その前に滞納分を払わなければ早刻立ち退き、と女家主に言い渡された彼は、現実問題、年金じゃどうにもならない。退職記念の金時計を手放そうと友人間を回っても、希望額の半値でも売れない。部屋がホテル代わりにマタ貸しされても、怒りの持って行き場がない。借金の話を持ち出してもみんな無情。彼の唯一の相談相手、下宿の下働きの娘マリア（「屋根」にも出ていたカジリオ）にそんな甲斐性はない。逆に彼女から、二人の兵隊とつきあって、そのどちらかの子を妊娠したと聞かされ返す言葉に詰まるのが関の山。それでも何とかかき集めた分だけでも渡そうとすると、家主は“全額でなければ”とけんもほろろ。彼は乞食も考えるが、プライドが許さず、代わって犬がチンチンで帽子咥えて道往く人に金をねだるが、それも気の毒で、いよいよ自殺に思い当たるが、取り合えずフライクの処遇を決めてからだと、ペット預り屋に全財産を託して面倒を頼もうとする。けれど、まともに散歩もさせていない様子なので断って、貰い手を探し回るが、結局、見つからず、彼を道連れに鉄道に飛び込もうとして、その悲鳴に思い留まる。まさに犬あっての彼の人生は孤独で同情したくなるが、主演のバティスティはやぶ睨みで、あまり人好きのするキャラクターではない。演技には全く素人の大学教授だそうだが、なるほどという感じ。だから、チャップリンには到底なり得ず、ひたすら辛気臭い。そして、そこがデ・シーカの狙いなのだろう。大家に勝手に犬を処分されそうになり、必死の形相で犬を保健所まで探しに行く段は、ちょっと鬼気迫るものがあった。

【クレジット】

監督	ヴィットリオ・デ・シーカ	Vittorio De Sica
脚本	チェザーレ・ザヴァッティーニ	Cesare Zavattini
撮影	Ｇ・Ｒ・アルド	G. R. Aldo
音楽	アレッサンドロ・チコニーニ	Alessandro Cicognini
出演	カルロ・バティスティ	
	マリア・ピア・カジリオ	Maria-Pia Casilio
	リナ・ジェナリ	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.